

編集委員長からのご挨拶

皆様に朗報です。

この度、RMB (Reproductive Medicine and Biology) 誌に、念願のインパクトファクターが付与されました。インパクトファクターは、3.239 で、reproductive biology の分野では中間にランクされています。これも、会員の皆様のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。

RMB 誌は、2002 年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。そして、2016 年にはアジア子宮内膜症学会が、2020 年には日本卵子学会も加わりました。RMB 誌の大きな転機は、前編集委員長の今井 裕先生のご尽力により 2017 年の 1 月からオープンアクセス・ジャーナルとなったことです。全世界の人々が RMB 誌に掲載された論文を自由に読むことができるようになりました。2019 年には PubMed Central に収録され、論文検索によって RMB 誌に掲載された論文が検出されるようになり、ダウンロード数も一気に増加しました。認知度も上がり、他誌に引用されることも多くなり、そして、2021 年の 6 月に念願のインパクトファクター 3.239 が付与されました。現在、順調に投稿・掲載論文数が増え、年に 4 号が発刊され、約 50-60 編の優れた原著や総説が掲載されています。2002 年の創刊号から掲載されている全ての論文が PubMed の検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

我が国は、年間 40 万周期以上の ART が行われる世界一の生殖医療大国になっています。本邦の生殖医療・医学をさらに向上させ、その情報を世界に発信してゆくことは、生殖医療・医学に携わる我々の重要な使命です。日本が世界の生殖医療・医学を牽引していくためには、日本発の情報発信のツールである RMB 誌をさらに充実させていくことが重要ではないでしょうか。RMB 誌が世界に誇れる生殖医療・医学の国際的英文雑誌として、さらに発展しますように、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2021 年 7 月 15 日
日本生殖医学会編集担当理事
RMB 誌編集委員長
杉野 法広